

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	令和1年10月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和1年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイサービス、2・3階に有料老人ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。その4階からの眺めは素晴らしく、朝に夕に富士山を望む事ができ、入居者の方々も景色を眺めて楽しんでおられる。ホームは入居者数が9名と少人数なので職員は一人ひとりに寄り添い、じっくりと関わり合いを持ちながらケアを行なう事を心がけている。また、町内会の方々には定期的にご来設いただき、デイサービスとの合同のカラオケ会を開催したり、ホームの行事に唄や踊りで参加していただいたりしている。そして、町会主催の「桜祭り」や「夏祭り」へのご招待など開設当初から良い関係が継続されている。これからも地域に根ざしたホーム作り、明るく清潔感のある環境作りを心掛け、入居者皆様が安心して穏やかに生活をしていただけるよう努めていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の出来る事が少なくなっても、少しでも出来る事を見つけ支援していく方針である。一人ひとりの違い、その日その日の違いがある事を理解して、無理せず、やり過ぎず、寄り添いながら一緒に生活することを職員間で話し合っている。また、家族との関係づくりも重視しており、家族会を設置して、要望にはきちんと応えるよう努めている。町内の行事には案内や招待があり、町内会と合同のカラオケ大会も実施している。地域の中学校からは、毎年体験授業を受け入れている。ホームは、管理者と職員が一緒に、より良いホームをつくることを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」との理念を職員は共有しており、入居者一人ひとりのやりたい事、出来る事を見定め、掃除や洗濯等を職員と一緒にこなすなど出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。	たとえ利用者の出来る事が減っても、理念に沿って出来る事を見つけていきたいと考えている。一人ひとりの違い、その日その日の違いがある事を理解して、様子を見ながら、無理せず出来る事を見つけていこうと話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者は町内会に加入しており、町内会長には運営推進会議に出席して頂いている。町内会の方々と定期的に合同カラオケ会を開催しホームでの行事などにも参加していただいている。	町内会からは夏祭りなどのイベントの案内や招待状が届いている。地域の中学校の社会体験を受け入れるなど、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於けるイベントへ参加し、地域の方々との交流を図り認知症に対する理解を深めてもらう。ホームの行事に地域の方々も参加して頂き施設への理解を深めていただく。又、中学生の「福祉体験」を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し入居者やホームの現状、サービスの取り組み等を報告し、議題についての意見交換を行なっている。構成員のご意見やお話に耳を傾けサービスの向上に努めている。	会議は毎回テーマを決めている。 敬老会や家族会、クリスマス会などのイベントも一緒に開催することもあり、利用者が参加してハンドベル演奏会をおこなったこともある。参加者には事業所活動を理解してもらうとともに、意見や提案をもらっている。	引き続き、多様な参加者を募り、さまざまなテーマで意見交換がされ、サービス向上につなげる事が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の向上連絡会、屋敷地域ケア会議に出席し各事業所の取り組み等についての情報交換をするなど協力関係を築くよう努めている。	市主催の向上連絡会はホームや介護相談員が参加して年2回開催される。地域包括支援センター主催のケア会議、多職種が参加する勉強会にも出席している。この度の風水害では市や県と災害状況について情報交換した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、研修等で言葉による拘束も含め身体拘束について正しい理解が出来るようにしている。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回以上行い身体拘束をしない適切なケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化の指針、基本方針が定められ、3か月ごとに委員会を開催している。委員会は、実際の事例がなくても、言葉の拘束、ベッド柵での拘束、職員都合による制約など、起こりがちなテーマを上げて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連について研修を受けている。言葉の虐待を始めケアを行なう中で虐待と思われる行為がないか、職員全員がお互いに注意を払い、気づいた点があれば申し送り等で報告し虐待の防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の際、学ぶ機会を持つ様に努めている。現在成年後見人制度を利用している入居者がいる事で学ぶ機会を持つことができる。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や入居後も、利用者や家族の不安や疑問には十分な説明をし理解、納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議、又面会時など家族の意見や要望を聴く機会をもうけている。利用者の意向は日常的に把握に努め、それらの意見や要望を職員間で話し合い反映に努めている。	家族会を設置しており、家族の意見を聞くようにしている。運営推進会議にも家族が出席しており、意見をもらっている。また、面会時にも声をかけるようにしている。出された意見は検討して反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は申し送りやホーム会議などで職員と意見交換を行なっている。運営面についての提案があれば話し合い反映に努めている。又日頃から職員が話しやすい環境づくりを心がけている。	管理者は、職員間での情報共有や意思疎通を大切にしている。ミニ会議を頻繁におこなって職員の提案を聞くようにしており、意見は反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力や実績、勤務状況を常に把握しており、職員が働きやすく向上心の手持てるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の持てる力を把握し、社外の研修や月に一度の社内研修への参加を促している。又働きながらトレーニングをして行く事で技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の向上連絡会や高齢者相談センターでの会議に出席し、同業者と交流する機会を作っている。他事業所と取り組みなどの意見交換を行いサービスの質の向上に役立てている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より情報収集を行い、本人の想いに寄り添いホームが安心して生活できる所だと心理して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の要望やこれまでの経過、現在困っている事などを聞く機会を設けている。入居後も面会時に現状を伝えるなど信頼関係を築ける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族双方の話を傾聴し必要とされている支援を正しく把握するように心掛けている。又その他のサービスをも含め対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりの出来る事、やりたいことなどを見定め、日常生活の中で食事の片付け、洗濯物をたたむなど本人が今出来る事を自然に手伝う家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を最も理解している家族の協力を得て、本人と家族の関係を大切にしながら、本人を支援していく様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がホームを訪れる事は少なくなっているが、家族のご面会はよくあり、お墓参りなど家族の協力を得ながら関係が継続できるように努めている。	家族の面会が多く、家族と一緒に墓参りや外出に行く利用者もいる。また、今いる場所が馴染みの場所となるように、地域の行事やイベントに参加するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、一人ひとりの気持ちを尊重し孤立することがないように、体操やレクリエーション等へお誘いし、入居者同士が関わり合う事が出来る様努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人・家族からの相談には、親身に対応するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴、生活習慣、趣味、意向等をよく聞き、入居者が発した言葉や行動から入居者の気持を探りながら、本人の思いや意向の把握に努めている。	入居時には家族や本人から生活歴を聞き取って参考にしている。また、日々の会話の中や表情から思いを把握するように努め、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、本人や家族から入居前の生活歴、暮らし方を聞き、出来る限り今までの生活に近い過ごし方をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を日々注意深く見守り、心身状態等の現状を申し送りなどで職員間で共有し、その方にふさわしい過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望や意見を聞き取り介護計画に反映させている。職員は入居者の情報を共有し実践出来るよう努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、個別記録をもとにホーム会議で検討して介護計画を作成している。定期的にモニタリングをおこない、必要に応じて随時介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子は個別毎の記録に詳しく記入し申し送り等で報告している。職員間で情報を共有する事でケアの見直しを行い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々本人や家族の状況を把握し、新たなニーズには出来るだけ柔軟な支援やサービスの提供を心掛けるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭り等の行事で地域の方々と交流を続けている。町会長には運営推進会議に出席して頂き意見交換を行なっている。定期的に町内会カラオケクラブの方々と合同カラオケ会を開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の往診がある。専門医を受診する場合は家族に連絡し依頼があれば職員が同行している。必要に応じて訪問歯科診療をうけている。かかりつけ医とは日頃から連携がとれており適切な医療が受けられる様支援している。	利用者は、入所時にホームの協力医をかかりつけ医としている。協力医は月1回の訪問により、利用者の健康管理をおこなっている。専門医や訪問歯科の受診も必要に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者の体調について看護師に連絡・相談が取れるように体制を整えてあり24時間の電話対応も可能である。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリー、退院時には看護サマリーにて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた支援について説明している。食事が摂れなくなる等の状況に応じて家族へ説明し話し合いの場を持つ事としている。入居者・家族の意向に寄り添いかかりつけ医と連携しながら終末期に向けた支援に取り組んでいる。	入居時に「グループホームにおけるターミナルケア」という指針をもとに説明し、署名捺印をもらっている。終末期が近づいたときは、再度、医師が家族に説明し、ホームが出来ることも説明し、家族に寄り添いながら支援をしている。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来る様にマニュアルを作成し、職員は周知している。看護師からは常に適切なアドバイスが受けられる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回入居者、職員が参加しての合同訓練を行なっている。夜間を想定した訓練も行い地域には災害時の協力をお願いしている。備蓄など社内で検討し準備を進めている。	年2回の消火訓練は、法人施設が合同でおこなっている。備蓄は3日分のおむつ、水、食料を準備している。	先般の台風などを踏まえ、町内会や法人施設と連携して、災害対策の見直しをすることも期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、接遇、マナーの研修を受け学んでいる。声掛けなどについて現場で気づいた事があれば申し送りなどで報告しどのような声かけが良いのか考え、一人ひとりのプライドやプライバシーに配慮した対応をしている。	接遇、マナーについては定期的に職員研修を実施している。個人の尊厳を損なわないように、気づいたことは申し送りで報告し、職員が気づいていない場合は、個別に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せるような雰囲気や日常的に作り自分で納得しながら暮らせる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや業務を優先するのではなく、入居者一人ひとりに向き合いその方に合わせた過ごし方が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容を設けている。本人の意向に合わせた清潔感のある身だしなみ出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を利用している為献立は決まっているが、入居者の希望や一人ひとりの嗜好に合わせた献立に変更することもある。準備や片付けなども楽しみながら手伝いが出来る様支援している。	栄養バランスを考えた献立が作られているが、季節ごとに嗜好などを聞き取り、献立を変更することもある。彩りを考え、個別に食事形態も変えて提供している。箸と湯飲みは自分のものを使っている。盛り付けは利用者と一緒にこない、自宅と同じように食事を楽しめるように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を記録に残している。一人ひとりの状態を把握し、問題がある場合は、申し送り等で報告し職員が共有する事で習慣に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し一人ひとりの口腔内の状態を把握して清潔保持に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するように努めトイレ誘導を行っている。レベルの低下にならないように夜間はおむつを使用している入居者も日中はリハパンとパッドを併用しその方に合わせた支援をしている。	排泄については、記録して個々のパターンを把握し、適切な誘導で排泄の自立に向けて支援している。夜間はオムツでも、日中はリハビリパンツを使用するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取を促し、毎日の適度な運動や散歩等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日を決めているが、一人ひとりの体調や要望に応じて、いつでも入浴出来る様支援している。洗身、洗髪等本人が出来る事はやってもらうなど自立支援に努めている。	入浴は週2回を基本としているが、個別の体調や希望により、曜日や、時間を変更している。自分でできるところは、できるだけ自分でしてもらうように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し日中は出来るだけ体操やレク等で体を動かし、生活のリズムを作れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬について理解をし、誤薬や薬の飲み忘れなどにも十分に注意をしている。内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や出来る事を把握し、役割を決めるなど、自己の得意分野で力を活かす事により有意義ある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の初詣、お花見、夏祭り等には家族や地域の方々に協力して頂き実施している。天候の良い日には近隣の公園に散歩に出たり、コンビニへ買い物に行くなど出来るだけ戸外に出掛けられる様に支援している。	初詣や季節のお花見に出かけている。また、日常的に地域の公園や買い物に出るなど、外出の機会を作るように工夫している。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し本人の希望に応じてお金を所持し買い物などの際、ご自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じてその都度家族や大切な人に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、入居者の作品や手作りのカレンダーを飾り、食事の時は音楽を流すなど家庭的で温かみのある環境を重視している。又リビングの床暖房は入居者に好評である。	共用空間は日差しが入り明るい。床暖房を設置しており、居心地がよさそうで寛げる。職員は利用者が落ち着いて過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、車椅子を使用している方が居る為、安全を重視しているが、気の合う入居者同士で自由に過ごせる様な環境作りをしている。又常に職員が気配りをし孤立する入居者が出ないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、ベッドと大きなクローゼットを設置しており、使い慣れた家具や生活用品、又写真を飾るなど思い出の品を活かし、入居者が落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	居心地よく過ごせるように、家族と職員で話し合い、使い慣れたものを持ち込んでもらっている。それぞれ写真や好きなものを飾り、自分らしい居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態を考え、廊下には手すりを設置し歩行や立ち上がりの練習をして頂くなど出来るだけ自立した生活が安全に送れるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所